新型コロナ感染症へのJMA神奈川県央地区の対応について

昨年から猛威を振るう新型コロナウィルス感染症ですが、皆様におかれましては大変不安な毎日をお過ごしのことと存じます。今なお療養生活や過酷な治療を余儀なくされている方々には心からのお見舞いを申し上げますと共に、感染によりお亡くなりになられた方々やそのご遺族の方々には衷心より哀悼の意を表します。

昨年1月、本邦で初めての感染が確認されて以降、本年9月1日23:59時点での全国の累計新規感染者数は151万661人（神奈川県では14万9685人）、亡くなった方は1万6141人（同、1120人）を数え、一向に感染終息が見通せない状況が続いております。

この様な状況の下、現在我々が取り組んでおります、新型コロナウィルス感染症に対する対応方針と状況についてご案内をさせて頂きます。

弊法人神奈川県央地域において私たちは、海老名総合病院と座間総合病院が、限られた医療資源を有効かつ効率的に活用し、パンデミック下でも皆様に必要な医療を継続して提供していくためには、医療機能の役割を分担し、人的・物的資源を共有しあい、医療機能の集約化を図ることが極めて重要と考えております。

この様な基本方針に則り、現在海老名総合病院では、昨年5月に開設した「東館」で52床、「本館」では本年9月から40床（合計92床）で軽症から中等症の患者さんの受入体制を、またICU病床の一部3床にて重症患者さんの受入体制を整え運用開始しております。同じく座間総合病院では、コロナ専用病床はありませんが、常時8床のコロナウィルス感染疑似症患者さん専用の病床を確保して入院を必要とする患者さんの対応を行っています。併せて座間総合病院では、海老名総合病院で受入縮小をせざるを得ない一般急性期患者さんの受入体制を整えながら、海老名総合病院はじめ近隣のコロナ感染者の急性期治療後に、直ぐにはご自宅等に帰れない患者さんを受入れる後方支援や、海老名総合病院への看護師をはじめとした人材の派遣も行っています。

併せまして、当然のことながら医療はコロナ対応だけではありません。海老名総合病院での救命救急センターはじめ、両施設の一般急性期医療も、同時に提供し続けることが必要と考え、今後も県央地域では医療難民を作らないという固い決意の下、今後も感染症対応をはじめとした診療体制を整えてまいります。引き続いての皆様のご理解とご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

2021年9月3日

社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス
理事長　谷口 佳浩

座間総合病院と海老名総合病院の診療機能について

JMA GROUP

二つの病院の機能分化

海老名総合病院

【通常医療】
高度急性期～一般急性期

本館

東館

感染症治療後
患者さんの転送・転院

座間総合病院

【通常医療】
一般急性期・回復期
・療養1.5次～2次救急

コロナ陽性確定
患者さんの転送・転院

- コロナ専用病床（92床）
（重点医療機関に指定）
- 発熱外来
- 救命救急センター

看護師等の人材の派遣

- 発熱外来
- コロナ疑似症受け入れ
- 救急外来

©JMA GROUP